

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073500318		
法人名	社会福祉法人 慈愛会		
事業所名	グループホーム富の里		
所在地	福岡県糸島市富508-4 (電話) 092-324-9333		
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 5 日	評価結果確定日	平成 25 年 11 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者のADL低下・認知症の進行が顕著である。重度化へ向けた取り組みとして、基礎介護技術の向上と、利用者担当制を活かし個別の生活支援に努めている。
職員個々においても、毎月利用者に季節を感じて頂くような行事を取り入れ、その中で利用者、職員の交流を図り認知症の人の理解を深めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 9 月 26 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の周辺一帯は自然に囲まれ、野鳥の鳴き声や風の音が心を落ち着かせる。また、事業所内ではウサギを飼っており、利用者をなごませている。2ユニットのグループホームと生活支援ハウスが同じ建物にあり、渡り廊下でデイサービスや特別養護老人ホームとつながっており、それぞれの利用者との交流も図られている。法人の各事業所と意見交換しながら行事や避難訓練等を計画し、実施している。また、法人規模で職員の配置転換や研修会が行われているため、個人の能力向上・自己実現に向けて安心して働ける職場環境にある。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を職員全員が理解できる為の研修を実施。人との関わりの大切を学び、地域の中でのグループホームとして交流と貢献に努めている。	事業所の理念は、一人ひとりを大切に、地域社会への参加、貢献できるよう掲げられている。理念は、法人作成の職員手帳や事業計画書に記載され、職員全員へ配布している。朝礼での唱和、職員会議時に日々の援助に反映できるよう話し合われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の月一回のお宮掃除に職員が参加して、グループホームの存在を周知できるよう努めている。また、季節行事を通じて子供会との交流を継続することで利用者とのつながりを深めている。	月1回の地域のお宮清掃のほか、文化祭、運動会でも交流を図っている。法人主催の夏祭りや餅つき、花火には子供会を招待している。町内会にも加入しており、「ほのぼの通信」を公民館に配布し、地域の方々へ広報活動している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、年間を通して2回の認知症高齢者の理解として、子供会を対象に基礎介護研修（車椅子の使用方法）、高齢者の姿を映像で伝えるなどで、理解を深めていただく取り組みを行った。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者の委員の方に、事業計画・事業報告・研修・行事報告等の説明を行い利用者サービスの実際を知って頂く。また、説明の中で頂く意見、要望に関しては、会議で職員へ報告している。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、活動計画やサービスの実際が報告されており、利用者・家族、行政職員、民生委員が参加している。消防訓練に対する意見により消火器使用法を項目に取り入れるなど、会議で出た意見を活かすよう取り組まれている。感染症に対する地域の情報交換も行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員の運営推進会議に出席して頂く事で、グループホームの実情、利用者状況を知って頂く。	市行政や地域包括支援センターと空室状況等の意見交換している。今後も協力体制が継続できるよう働きかけていく予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止検討委員会を中心に、全職員が身体拘束に関する禁止の対象となる具体的な行為の理解の周知に努めている。また、玄関に施錠をしないケアやスピーチロックなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は日中施錠せず、業務の状況を見ながらチャイムを活用しているが、基本的には利用者の外出傾向を把握しており、付添い対応を行うなど、身体拘束をしないケアを実践している。また、不測の事態に備え利用者の顔写真を法人の各事業所へ配布している。職員に対して身体拘束に関する研修やアンケートによる意識調査を実施し、意識向上を図っている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム会議の中で、高齢者虐待関連法の周知が出来る様に、事業計画で取り組んでいる。又、虐待が見過ごされることがないように、事故報告などの確認で注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を、グループホーム会議の中で取り組んでいる。今後、職員個々が制度の理解ができるような研修に努めている。	権利擁護に関する制度について、家族へは相談があった時などに説明等を行い、情報提供している。一部の職員が外部研修に参加して権利擁護に関する知識を習得し、研修報告や報告書の閲覧により全職員に周知できるよう努めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、重要事項説明書を家族に提示して説明を行っている。不明な点は随時受け付けるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者・家族、民生委員などの出席がある事で、事業計画・事業報告を確認していただき、意見を頂く工夫をしており、その中で頂いた意見を会議で職員に提示している。	運営推進会議以外でも、日常的に意見や思いを聴くように努め、利用者・家族の意見が反映できるよう職員間で話し合いが行われている。食事時間や入浴時間、散髪の種類、行事予定の連絡時期などの要望・意見を運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	外部評価自己評価の集計を行う上で、職員の意見や考えを知ることが出来ている。また、グループホーム会議の中でも、意見を出せる設定をしている。	管理者は、職員へ日常的に声をかけたり、会議や個別面談にて意見を聞き取り、運営に反映させている。最近では、行事の企画、入浴専用タオル、夜間パッドの種類変更などの職員意見を反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を有効に活かし、個々の就業状態の把握に努めている。また、向上心を持って働けるような研修などの派遣に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関しては、募集の時点から性別や年齢などを理由に採用対象から排除はしていない。また、職員には能力発揮、イキイキとして働けるよう資格取得、社会参加が出来るよう勤務環境に配慮している。	職員採用は法人本部で行われている。法人は人事考課制度を採り入れており、職員が自己実現に向けて能力が発揮でき、安心して働けるよう職場環境が整えられている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育に関する研修に職員が参加することや、グループホーム会議で研修の取り組みを行っている。	「企業と人権問題」の研修に職員の一部が参加し、同和問題・女性問題・セクハラ問題・パワハラ問題等について学習している。研修内容は報告書にまとめられ、会議や報告書回覧により他職員へ周知されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での職員研修の取り組みを検討が行われ、職員の就業年数に合わせた外部・内部研修が実施されている。働きながら、資格取得できるよう支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型部会を活用して、他施設見学や部会での研修参加をすることで、交流の機会を持ち自施設のサービスの向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の際は、居宅より情報を得ることや、他サービス利用時に面識を持つことに努めている。また、ショートステイを利用しながら、職員との関係作りに取り組んでいる。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に自宅への訪問をさせて頂き、ご家族・利用者との面識を持ち、情報を得ながら関係作りを努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に自宅への訪問をさせて頂き、ご家族・利用者との面識を持ち、情報を得ながら関係作りに努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、生活習慣や特技を発揮していただける環境を設定して職員と利用者が共に生活ができていると感じられるような関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者の誕生日などには家族と一緒に過ごす時間が出来るような企画を立てている。また、体調の変化などを家族へ伝え、面会に来て頂くことで支えあう関係の構築を手伝っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域にすまれる同級生が訪ねて来られたり、地域の掛かりつけ医への継続した受診などを行い、馴染みの関係が途切れないように努めている。	職員は、入居時に利用者の馴染みの人や場所を把握し、関係が継続できるよう努めている。入居後に追加された情報は、業務日誌で把握している。盆・正月の帰省や友人の面会など、継続的な交流を支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2ユニットで行う行事などで、18名の馴染みの関係づくりに努めている。また、個々の関係を把握しながら、お互いを支えあう関係作りの支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームのサービス終了時には、住み替えがスムーズにいくように情報を整理して提供したり、同法人サービスを利用する場合は、家族に支援が出来るよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事・入浴・排泄など、暮らしの場面場面で、個々の希望や意向の把握に努めている。また、本人本位の支援が出来るよう本人の言動や表情などから意向が把握できるよう努めている。	職員は、日々の関わりの中で声かけをして、思いや意向の把握をしようとしている。利用者の言動や表情から、利用者の気持ちを汲みとったり、確認をしている。意志疎通が困難な利用者には、家族訪問時や電話などで情報を得ようとしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホームでの生活支援がスムーズに行えるように、家族から生活歴や生活習慣を入所時や面会時に伺い馴染みの生活支援に努めている。また、他サービス事業者からの経過を紙面や聞きとりを実施しながら把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームでの生活の中で、職員は利用者の心身状態や持てる能力の把握に努めている。また、スムーズに生活支援が行われるように新職員には情報を提供している。各職員の利用者情報は共有してアセスメントに繋げている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には、グループホームでの支援に関しての意向を伺っており、職員間では日々の生活の中での本人の意向の把握に努めている。センター方式シートを使用しての本人の想いを見つけ出し、介護計画に繋げる取り組みを行っている。	本人や家族の意向、職員の気づきや意見を反映しながら、その利用者にあった介護計画を作成している。家族から介護計画を了解した署名・押印をもらっている。介護計画の見直しは6ヶ月に1回、または利用者の状況変化時に行っており、その都度家族に報告して了解をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活の状態把握等は、日々の様子を職員個々が記録に残しており、利用者担当は情報把握して、介護計画見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や、家族の要望・意向には柔軟なサービス提供ができるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭や、交歓大会等に参加する為に、手芸や音楽を練習する事で個人の持つ能力を発揮しながら、楽しむ事の時間の支援に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には、病院に関する希望をご本人家族に尋ねながら決めている。かかりつけ医とは、連絡・相談を行い状態変化に対応している。	利用開始時に受診の希望病院を確認している。今までのかかりつけ医が希望の場合は、家族による受診の付き添いのもと受診継続を支援している。皮膚科や眼科は近くの医療機関を受診している。内科・精神科は協力病院を受診することが多い。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の生活の中で、皮膚観察や状態観察を行い、変化は看護職へ随時報告・確認を依頼している。状態により受診体制を取っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、病院との連携を持ち安心して治療が受けられるよう対応している。また、家族・医師・グループホームと情報交換を行いながら早期に退院が出来るよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化に向けた対応方法などご家族への説明は行っている。また、終末期ケアについては、ご家族の意向を頂いているが、終末期ケアは実践していない。	看取りの方針が具体的内容で明文化されている。利用開始時に看取りの基本方針を家族に説明し、終末期看取りについての事前確認書に記入してもらっている。重度化してきた場合、利用者や家族の意向を大事にしながら、家族・職員・かかりつけ医で話し合い、全員で方針を共有し支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業計画に、緊急時の対応に備えて研修を取り組み、職員の能力向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の日程を事業計画に設定して、地域の方の参加を依頼した訓練を実施。地域との協力体制の構築に努めている。	災害マニュアルが作成されている。年2回、消防署の協力を得て、避難経路の確認・消火器の使い方・火事の通報方法を行っている。避難訓練は小規模なものを隔月で実施しており、地域住民の参加もある。非常用備品は事業所内に、食料品・飲料水は併設施設に準備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上委員会による、処遇自己チェック表を通して、日々の利用者対応を振り返り、友達言葉にならないよう、またプライバシーを損なわない言葉かけに努めている。	居室訪室時はドアのノック、ケア時はドアを閉める、利用者を傷つけないようにさりげなく声かけをする等、プライバシーに配慮した対応をしている。プライバシー確保と人権尊重について、新人研修の項目に入っており、内部研修でも職員の意識向上に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者間、職員との会話の中で、本人の希望を把握する事に努め、日常生活の中で食事・入浴・排泄に関して自己決定ができるような声掛けに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、業務の時間を出来るだけゆるやかに、利用者がゆっくり過ごせるように努めている。また、極少数人数ではあるが、その日の過ごし方を優先した支援をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴準備時には利用者と一緒に、衣類を選ぶよう努めている。また介護計画の中に取り組んだ、起床時の整容など身だしなみの支援に努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や、栄養状態を把握する事や、その人に合った食事形態での食事提供に努めている。また、限られた利用者になっているが、一緒にできる調理の準備や味付けを行っている	厨房で作られた食事が大皿盛で運ばれ、利用者と職員は、一緒に盛り付けや後片付けをしている。職員は、利用者と同じ食事を同じテーブルで一緒に食べている。利用者の嗜好や希望を聞きながら、一緒におやつをつくることもある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行い、一日の状態把握に努めている。また、食事量減少の方については、本人の嗜好を優先した食事、高カロリー食の提供など栄養摂取や、水分確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の口腔状態、清潔保持機能の観察を行い、口腔ケアの実施方法を検討している。個人に合った歯ブラシ、ガーゼ使用・介護用品をそろえている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の能力に応じて、日中・夜間で布パンツ・紙パンツ、トイレとポータブルトイレと使い分けを行う。また、職員は、その方に応じたトイレの誘導方法を検討して、自立に向けた支援に努めている。	職員は、利用者の排泄パターンやサインを把握しており、個々に合わせた介助をしている。尿意がはっきりしない利用者は、時間をみはからってトイレ誘導をしている。排泄の失敗があった場合は、周囲の利用者に気づかれないように、さりげなく声かけや誘導をしている。使用するオムツやバット類の種類や時間帯は、常に見直しを行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便有無の把握を行い、排便困難な方には医師へ相談を行い下剤の調整を受けている。また、日々の排泄支援に関しても、食事形態や水分量等の観察		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者の体調や、希望に合わせた入浴日、時間帯で援助する事に努めている。また、ゆっくりと湯船につかり過ごして頂けるような時間を設けている。しかし、入浴時間帯については、職員の勤務状態で実施している事が多い。	毎日入浴できるように準備をしている。本人の希望する時間や回数にできるだけ応えるように努めている。しょうぶ湯や薔薇湯をしたり、浴槽に入っているときに、一緒に歌を歌ったり話をする等、入浴を楽しんでもらえる工夫をしている。入浴を嫌がる利用者には、時間や職員を変えて声かけをしたり、足浴や清拭で対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせた、ベット・布団など寝具調整を行い安心して休んで頂く支援をしている。また、一日を通して体調に合わせた休憩など取り入れた生活支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の既往歴や、服薬している薬の容量や、用法についての理解や把握が出来るように、資料についてはファイルしており、周知に努めている。また、症状の変化の確認が全職員が出来るように努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「何かする事はありませんか？」と言われる方には、洗濯物干しや洗濯物たみ等をして頂き役割を持って頂く支援をしている。また、個人の嗜好品を把握して行事の中で手作りをしている。季節を取り入れたみかん狩りなどで、気分転換を図れるよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望され実施できている方は少ない為、外出しやすい時期や時間を都合して、できるだけ戸外に出掛ける支援に努めている。また、誕生日企画などでは、家族の協力を得て食事に出掛けて頂いている。	利用者の希望を聞きながら外出の支援をしている。天候がよい時期は、散歩へ週1回以上行っている。家族の協力を得て、誕生日に外食に行ったり、桜の花見・紅葉狩り、弁当を持って公園へドライブに行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理が出来る方は数名である。自己管理出来ている方に対しては、自己の買い物の際には支払いをして頂く支援をしている。管理をしている金銭については、出納帳を確実に記録している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話連絡を希望される方には、取りつきまでの支援をしたり、手紙が書けるような準備を手伝っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂内では、食器を扱う音が大きくならない様な配慮や、テレビ・CDの音の調整を行っている。壁面は、季節を感じて頂けるような飾りつけにしている。また、庭に咲いた季節の花を館内に飾ることなどを行っている。	リビングは、季節感を感じる居心地のよい空間作りになっている。テレビや職員の声はちょうどよく、暑い時期は、カーテンやよしずで光の強さを調整している。リビングで飼っているウサギは利用者の癒しになっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、気の合った利用者が一緒に食事が取れる様な席の配慮を行っている。館内には、畳みに腰を下ろす事が出来たり、少人数で談話出来るよう廊下を広くとり談話スペースを準備している。また、自室には個人で楽しめるよう馴染みの家具等を持参して頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時の説明には、ご本人の使いなれた家具や、好みの物を持参頂けるよう伝えている。居室内で書き物をしたり、TV・キーボードを使用して自分の楽しみの時間を過ごす利用者の方もおられる。	利用者が使い慣れた小さな整理だんすや写真、飾り物、鏡が置いてある。歌が好きな利用者はキーボードやDVDを持参され、居室で音楽が楽しめるようにしてある。利用者が居心地良く生活できるように、配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は、全体に手すりを配置。廊下は、広く作られているので、車椅子の自操が可能である。また、トイレや居室には目印や名前を表記している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
			○	③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を職員全員が理解できる為の研修を実施。人との関わりの大切を学び、地域の中でのグループホームとして交流と貢献に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の月一回のお宮掃除に職員が参加して、グループホームの存在を周知できるよう努めている。また、季節行事を通じて子供会との交流を継続することで利用者とのつながりを深めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、年間を通して2回の認知症高齢者の理解として、子供会を対象に基礎介護研修（車椅子の使用方法）、高齢者の姿を映像で伝えるなどで、理解を深めていただく取り組みを行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者の委員の方に、事業計画・事業報告・研修・行事報告等の説明を行い利用者サービスの実際を知って頂く。また、説明の中で頂く意見、要望に関しては、会議で職員へ報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員の運営推進会議に出席して頂く事で、グループホームの実情、利用者状況を知って頂く。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止検討委員会を中心に、全職員が身体拘束に関する禁止の対象となる具体的な行為の理解の周知に努めている。また、玄関に施錠をしないケアやスピーチロックなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム会議の中で、高齢者虐待関連法の周知が出来る様に、事業計画で取り組んでいる。又、虐待が見過ごされることがないように、事故報告などの確認で注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を、グループホーム会議の中で取り組んでいる。今後、職員個々が制度の理解ができるような研修に努めていく。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、重要事項説明書を家族に提示して説明を行っている。不明な点は随時受け付けるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者・家族、民生委員などの出席がある事で、事業計画・事業報告を確認していただき、意見を頂く工夫をしており、その中で頂いた意見を会議で職員に提示している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	外部評価自己評価の集計を行う上で、職員の意見や考えを知ることが出来ている。また、グループホーム会議の中でも、意見を出せる設定をしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を有効に活かし、個々の就業状態の把握に努めている。また、向上心を持って働けるような研修などの派遣に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関しては、募集の時点から性別や年齢などを理由に採用対象から排除はしていない。また、職員には能力発揮、イキイキとして働けるよう資格取得、社会参加が出来るよう勤務環境に配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育に関する研修に職員が参加することや、グループホーム会議で研修の取り組みを行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での職員研修の取り組みを検討が行われ、職員の就業年数に合わせた外部・内部研修が実施されている。働きながら、資格取得できるよう支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型部会を活用して、他施設見学や部会での研修参加をすることで、交流の機会を持ち自施設のサービスの向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の際は、居宅より情報を得ることや、他サービス利用時に面識を持つことに努めている。また、ショートステイを利用しながら、職員との関係作りに取り組んでいる。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に自宅への訪問をさせて頂き、ご家族・利用者との面識を持ち、情報を得ながら関係作りを努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に自宅への訪問をさせて頂き、ご家族・利用者との面識を持ち、情報を得ながら関係作りに努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、生活習慣や特技を発揮していただける環境を設定して職員と利用者が共に生活ができていると感じられるような関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者の誕生日などには家族と一緒に過ごす時間が出来るような企画を立てている。また、体調の変化などを家族へ伝え、面会に来て頂くことで支えあう関係の構築を手伝っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域にすまれる同級生が訪ねて来られたり、地域の掛かりつけ医への継続した受診などを行い、馴染みの関係が途切れないように努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2ユニットで行う行事などで、18名の利用者間の馴染みの関係づくりに努めている。また、レク活動・創作活動を通して、日々の生活空間での利用者間の交流を深める工夫に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームのサービス終了時には、住み替えがスムーズにいくように情報を整理して提供したり、同法人サービスを利用する場合は、家族に支援が出来るよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事・入浴・排泄など、暮らしの場面場面で、個々の希望や意向の把握に努めている。また、本人本位の支援が出来るよう本人の言動や表情などから意向が把握できるよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホームでの生活支援がスムーズに行えるように、家族から生活歴や生活習慣を入所時や面会時に伺い馴染みの生活支援に努めている。また、他サービス事業者からの経過を紙面や聞きとりを実施しながら把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームでの生活の中で、職員は利用者の心身状態や持てる能力の把握に努めている。また、スムーズに生活支援が行われるように新職員には情報を提供している。各職員の利用者情報は共有してアセスメントに繋げている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には、グループホームでの支援に関しての意向を伺っており、職員間では日々の生活の中での本人の意向の把握に努めている。センター方式シートを使用しての本人の想いを見つけ出し、介護計画に繋げる取り組みを行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活の状態把握等は、日々の様子を職員個々が記録に残しており、利用者担当は情報把握して、介護計画見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や、家族の要望・意向には柔軟なサービス提供ができるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭や、交歓大会等に参加する為に、手芸や音楽を練習する事で個人の持つ能力を発揮しながら、楽しむ事の時間の支援に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には、病院に関する希望をご本人家族に尋ねながら決めている。かかりつけ医とは、連絡・相談を行い状態変化に対応している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の生活の中で、皮膚観察や状態観察を行い、変化は看護職へ随時報告・確認を依頼している。状態により受診体制を取っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、病院との連携を持ち安心して治療が受けられるよう対応している。また、家族・医師・グループホームと情報交換を行いながら早期に退院が出来るよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化に向けた対応方法などご家族への説明は行っている。また、終末期ケアについては、ご家族の意向を頂いているが、終末期ケアは実践していない。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業計画に、緊急時の対応に備えて酸素ボンベや吸引器の使用法の研修に取り組み、職員の緊急時の対応能力向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の日程を事業計画に設定して、地域の方の参加を依頼した訓練を実施。地域との協力体制の構築に努めている。また、職員は、避難訓練を通して避難誘導・通報装置の使い方などを学び、常に利用者の安全に努めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上委員会による、処遇自己チェック表を通して、日々の利用者対応を振り返り、友達言葉にならないよう、またプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者間、職員との会話の中で、本人の希望を把握する事に努め、日常生活の中で食事・入浴・排泄に関して自己決定ができるような声掛けに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、業務の時間を出来るだけゆるやかに、利用者がゆっくり過ごせるように努めている。また、極少数ではあるが、入浴時間の決定や、自室での時間の使い方など、その日の過ごし方を優先した支援をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴準備時には利用者と一緒に、衣類を選ぶよう努めている。また介護計画の中に取り組んだ、起床時の整容など身だしなみの支援に努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や、栄養状態を把握する事や、その人に合った食事形態での食事提供や雰囲気作りなどに努めている。また、利用者の能力に応じて調理を分担し、少しでも係われるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行い、一日の状態把握に努めている。また、食事量減少の方については、本人の嗜好を優先した食事、高カロリー食の提供など栄養摂取や、水分確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の口腔状態、清潔保持機能の観察を行い、口腔ケアの実施方法を検討している。個人に合った歯ブラシ、ガーゼ使用・介護用品をそろえている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の能力に応じて、日中・夜間で布パンツ・紙パンツ、トイレとポータブルトイレと使い分けを行う。また、職員は、その方に応じたトイレの誘導方法を検討して、自立に向けた支援に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便有無の把握を行い、排便困難な方には医師へ相談を行い下剤の調整を受けている。また、日々の排泄支援に関しても、食事形態や水分量等の観察を行い、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者の体調や、希望に合わせた入浴日、時間帯で援助する事に努めている。また、ゆっくりと湯船につかり過ごして頂けるような時間を設けている。しかし、入浴時間帯については、職員の勤務状態で実施している事が多い。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせた、ベット・布団など寝具調整を行い安心して休んで頂く支援をしている。また、一日を通して体調に合わせた休憩など取り入れた生活支援に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の既往歴や、服薬している薬の容量や、用法についての理解や把握が出来るように、資料についてはファイルしており、周知に努めている。また、症状の変化の確認が全職員が出来るように努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「何かする事はありませんか？」と言われる方には、洗濯物干しや洗濯物たみ等をして頂き役割を持って頂く支援をしている。また、個人の嗜好品を把握して行事の中で手作りをしている。季節を取り入れたみかん狩りなどで、気分転換を図れるよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望され実施できている方は少ない為、外出しやすい時期や時間を都合して、できるだけ戸外に出掛ける支援に努めている。また、誕生企画などでは、家族の協力を得て食事に出掛けて頂いている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理が出来る方は数名である。自己管理出来ている方に対しては、自己の買い物の際には支払いをして頂く支援をしている。管理をしている金銭については、出納帳を確実に記録している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話連絡を希望される方には、取りつきまでの支援をしたり、手紙が書けるような準備を手伝っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂内では、食器を扱う音が大きくなるような配慮や、テレビ・CDの音の調整を行っている。壁面は、季節を感じて頂けるような飾りつけにしている。また、庭に咲いた季節の花を館内に飾ることなどを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、気の合った利用者が一緒に食事が取れる様な席の配慮を行っている。館内には、畳みに腰を下ろす事が出来たり、少人数で談話出来るよう廊下を広くとり談話スペースを準備している。また、自室には個人で楽しめるよう馴染みの家具等を持参して頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時の説明には、ご本人の使いなれた家具や、好みの物を持参頂けるよう伝えている。居室内で書き物をしたり、TV・キーボードを使用して自分の楽しみの時間を過ごす利用者の方もおられる。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は、全体に手すりを配置。廊下は、広く作られているので、車椅子の自操が可能である。また、トイレや居室には目印や名前を表記している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない